

八ヶ岳 報告書

報告者 竹村勇紀

1. 参加者：3年2人、2年2人、1年1人 大学院生1人 計6人

2. 実施日：2015年8月4日（火）～8月6日（木）

3. 行動報告： 徒歩→ 電車⇒ バス⇒

1日目 (8/4) 天候：晴れ

	茅野駅	⇒	美濃戸口	→	美濃戸山荘	→	休憩	→	行者小屋
着			11:07		12:20		13:30		15:17
発	10:28		11:32		12:35		13:40		

茅野駅への電車が遅延していたためバスが間に合うかどうか気がになった。しかしバスも遅延に配慮し、少し発車時間がずれたため間に合った。

美濃戸口にて市嶋さんがお見送り、キムチと小玉のスイカの差し入れ。また美濃戸山荘のやまびこ小屋においても市嶋さんと合流、おいしいアイスクリームを買っていただいた。

山荘から行者小屋の間は急ではないものの長い坂道が続いた。中盤に河原や岩場があり、晴れていれば問題のないものの、岩場が広がっているため分かりづらいところがあった。視界の悪いときは特に注意が必要だと感じた。

行者小屋に到着し、少し経ったところでわか雨が降った。一段落して炊き込みご飯と豚汁を作る。豚汁は申し分なくおいしく作れた。またキムチはハムと合わせて炒めて食べた。

行者小屋は1日1000円であるが、連続しての使用はその日ごとに更新になるので留意しておくといよい。



2日目 (8/5) 天候：晴れ

	行者小屋	→	地蔵の頭	→	三叉峰	→	硫黄岳山荘	→	硫黄岳
着	3:00		6:00		7:00		8:18		8:57
発	5:00		6:18		7:10		8:35		9:02
	→ ヒュッテ夏沢	→	オーレン小屋	→	赤岩の頭	→	赤岳鉱泉	→	行者小屋
着	9:40		10:02		11:23		12:35		13:51
発	9:40		10:15		11:30		12:35		

夏合宿に備えたトレーニング山行ということで行者小屋が目的地であって、夏合宿に参加する人はテント等の荷物を持っての山行であった。

地蔵の頭までの道のりは急な坂道、はしごなどがあつたものの長い道りではなかつたのでそこまで苦勞はしなかつた。行き来の関係で硫黄岳山荘から硫黄岳にかけてがれきの多く長い坂道のため耐えうる精神が必要であつた。本来はこの硫黄岳から赤岩の頭を通り、行者小屋に戻るのが普通であるが、目的からヒュッテ夏沢を通つての移動を計画通り実施した。ヒュッテ夏沢からオーレン小屋にかけての道のりは、用意した地図の山行タイムではかなり急がないと間に合わないので注意したい。オーレン小屋からもう一度硫黄岳へ上るルートであつたが、終わらない坂道と徐々にたまりつつある疲れでペースが落ちてきた(たぶん計画者のせい...)。何とか行者小屋にたどり着いたが、最近の山行としては長時間歩いた方なので顔がどことなくやつれていた。

到着後、小屋に売っている冷たい炭酸飲料を飲む人、ラーメンを食べる人など皆思い思いの休み方をした。この日はいただいたスイカを切つて食べたがこのスイカが甘く、よいスイカだった。

夜は雨が降り、雷もなつてきたので小屋の人や携帯電話を用いて明日の天気を調べた。電波の状況は場所によって入る場所が違うものの一応入つていた。雨がやまなければ明日はルートを変更しようと考えながら眠りについた。食事は米を炊くだけであつたが、お米の量に関しては計算して入れた方がよい。



3日目 (8/6) 天候：晴れ

	行者小屋	→	(文三郎尾根)	→	赤岳	→	大天狗	→	(県界尾根)	
着	3:00				7:03		9:10			
発	5:04				7:20		9:15			
	→	小天狗	→	パーク	➡	清里駅	⇒	甲斐大泉駅	→	パノラマの湯
着	9:50		11:17		12:33		13:21		13:50	
発	10:07		12:17				13:45			

夜降っていた雨はすっかり晴れ、計画をそのまま実施することにした。

文三郎尾根は急な坂道と梯子、永遠に続くのではないかと思う階段が長く続いたため、たどり着くのに苦労した。赤岳頂上山荘は風が吹き肌寒いものの、視界が良く全体を見渡せた。残すは下りだけとなったものの、県界尾根を用いた下山は崩れやすい岩でできた道と3か所の急な岩場を下るので苦労した。3か所目が一番危険であった。落石に気を付けながらヘルメットを装着してゆっくりと下りた。人の行き来の関係で途中待ち時間が多くなってしまったが大きなけがもなく下山できたためよかった。このルートではバスと電車の乗り継ぎが待ち時間が多くなるので注意したい。



4. 総括

前述した通り夏合宿本番に向けての合宿であったため、傾斜の急な坂道や集中力を要する場所などが少なからず存在した。2日目に至っては「そのまま硫黄岳で折り返せばよかった…」と何度も思ったが、厳しい経験を積むことができたため今回の山行でも何かしら成長することができたであろう。登山を始めてまだ日の浅い人は今回が初めて2泊という経験になったが、荷物の入れ方や、疲れをなるべく翌日に残さないために必要なことが分かったと思う。幸いなことに天気にも恵まれ、雨は降らなかったが本番ではこうはいかず、より厳しいものになると予想される。しかし想定される登山に近いものを経験することができたので目的は達成できた。八ヶ岳自身はもちろん魅力的な山であるので、今後も部としての山行が行われるであろう。各自で山行の楽しみ方の可能性を増やしていきたい。